

有限会社 エイト農産



1 現在の経営状況等

(1) 経営理念、キャッチフレーズ等

10年後、20年後も地域農業の受け皿となる。

(2) 栽培技術の特長

ほ場整備された1ha区画の水田で、ブロックローテーションによる水稻－小麦－大豆の作付体系を確立するとともに、3年前からは転作作物として露地野菜（青ねぎ、キャベツ等）の作付にも取り組んでいる。

青ねぎについては、土壤分析に基づいた適正施肥や適期防除により高収量を確保しており、JAみどりのが主催するコンテストにおいて「達人」として表彰されている。

(3) 販売の特長

安定した取引ができるところから、生産物である米、野菜（青ねぎ、キャベツ等）は全てJAみどりのへ出荷している。

(4) 経営組織の特長

現組織の前身である「内ノ浦エイト農産組合」の構成員8名で有限会社を設立した。

(5) 労務管理の特長

代表取締役の孫（20代）が雇用就農している他、20代の職員を積極的に雇用しており、若い人材の確保・育成に力を入れている。

また、毎日の水管理や畦畔の草刈り等は、予め設定した単価（水管理：時間当たり単価、草刈り：m当たり

り単価）により年間契約したパート職員に作業を依頼しており、労務の軽減に努めている。

(6) 経営管理の特長

経理等を担当する事務職員を雇用しており、日々の取引をExcelで集計し、試算表まで作成している。決算は税理士に依頼しており、試算表に基づいて作成された決算書類等により電子申請を行っている。

(7) その他、特筆すべき事項

平成28年度からは、県農業大学校の先進農業体験学習にも協力しており、農業後継者の育成にも注力している。

2 法人設立までの変遷

(1) 法人設立の動機、きっかけ

内ノ浦地区（大崎市鹿島台）へほ場整備事業が導入されることに伴い、平成10年に地区内の8名の農家により「内ノ浦エイト農産組合」が設立された。

同組合は、ほ場整備地区の担い手として位置づけられ、地区内のブロックローテーションを確立する上で中心的な役割を担っていた。

品目横断的経営安定対策の実施など農政の大きな転換期を迎えるようとしていた平成17年、組合長であった林さんは、「国の施策等を活用することを考えると、今が法人化する絶好の機会である」と判断し、当時から労務管理等の指導を受けていた社会保険労務士に相談したことが法人化へ向けたスタートであった。

経営のプロファイル

経営概要

水稻（主食用米：約25ha、飼料用米：約22a）、小麦（約14ha）、大豆（約14ha）、青ねぎ（約80a）、キャベツ（約20a）、ほうれん草（露地：約10a、施設：約120坪）

主な施設・機械の保有

トラクター2台（85ps, 89ps）、田植機2台（6条×2）、自脱型コンバイン1台（4条）、汎用コンバイン1台、ブームスプレーヤー1台、ロータリーデッチャヤー1台、サブソイラー1台、畦塗機1台、麦播種機1台

構成員等

社員：8名、役員：2名（代表取締役1名、取締役1名）、従業員（常時雇用）：4名

法人設立年月日

平成18年4月24日

認定農業者認定年月日

平成28年9月1日

資本金

300万円

販売額等

2,000万円（平成28年3月1日～平成29年2月28日）、収入算入交付金等：2,238万円（経営所得安定対策等）

役員名

代表者：代表取締役 林 利男、役員：取締役 伊藤 洋一

過去の表彰

第1回みどりの達人コンテスト（JAみどりの主催）、青ねぎ「収量」の部【達人】

略図



有限会社 エイト農産

〒989-4104 大崎市鹿島台広長字内ノ浦21-3
TEL 0229-56-5765 (FAX兼用)
E-mail 8nosan@m01.n-ispanet

視察受入条件

視察受入は実施しておりません。